金色の風

坂道を白い車が
梢のトンネル息を弾ませ

ほんの少し窓を開ければ
金色の風そっと　髪をかすめて
小刻みなカーブ　登ってゆくたび
色づく木の葉　体を揺らし
笑ってるように流れるように
この心も撫でてゆく

これからゆくみち
知らないけれど
このままこの風と
走っていたい

坂道を白い車が
梢のトンネル息を弾ませ

山深くなり静寂が広がる
金色の風　そっと冷たくなって
小刻みなカーブ　少なくなって
明るくなってきた途端
ご褒美のような開けたところ
この心を弾ませてゆく

これからゆくみち
知らないけれど
このままこの風と
走っていたい

坂道を白い車が
梢のトンネル息を弾ませこちらが